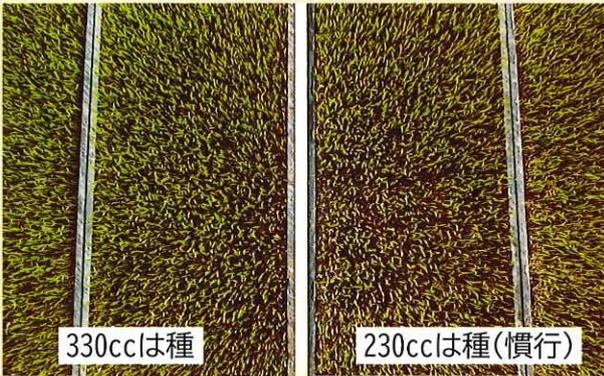


蘭越町重点地域で 「水稲省力栽培のススメ」

地域
第2係

1 高密度は種の実践

水稲栽培の省力化に向け、蘭越町重点地域で高密度は種栽培試験を実施しました。は種量は、一般的な2倍量ではなく、1.4倍量（催芽粉約330ccは種）で育苗しました。

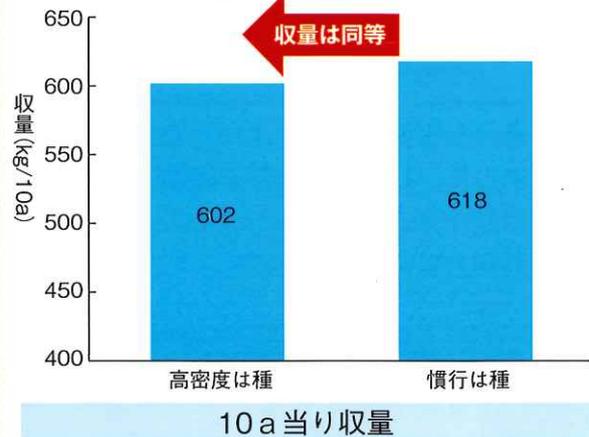


は種量による苗質の差

苗素質は慣行苗と比較し、乾物重が約7割となり、軟弱傾向となりましたが、その後の生育に差は見られず収量も慣行並となりました。

移植についても、移植機のかき取り設定(少量かき取り)で約2割の使用箱枚数の減少につながりました。

高密度は種は、重点地域でも導入可能であることが実証されました。



2 少量散布除草剤の提案



少量散布除草剤の散布準備

これまで除草剤のドローン散布は、1 kg/10a 使用でしたが、今回使用した除草剤は200 g/10a の少量散布が可能で拡散性に優れており、散布時間は従来品の20%に短縮できました。

試験散布当日は、農業者、関係機関とメーカーも同席し、吐出量の設定や拡散性の話を伺うことができました。拡散性が優れているため、畦からの手散布でも作業時間短縮が期待されます。次年度は、畦からの手散布による効果確認を予定しています。



直播てんさいの収量向上をめざして！

～「土壌 pH マップ」で適切な石灰資材施用量の提案～（京極町）

地域
第1係

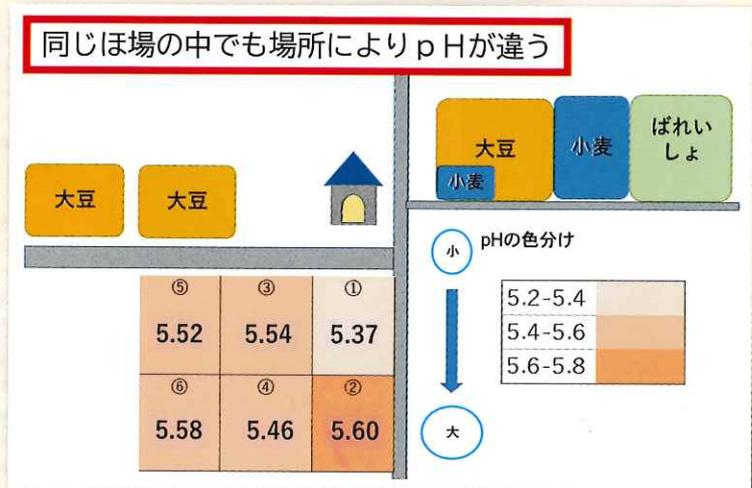
京極町では、年々てんさいの直播率が増加しており、令和4年度には61.9%となっています。しかし、土壌の低pHに起因する直播てんさいの初期生育不良が散見され、収量向上の妨げとなっています。そこで、ほ場を細かく分割して、土壌分析を行い、その結果を基にほ場一筆内の状態が一目でわかるよう「土壌pHマップ」を作成して、適正な石灰施用量を提案しました。



低pHによる初期生育不良



ほ場での土壌採取



土壌pHマップの例

適正量の石灰資材投入により、は種前の土壌pHが適正值の5.8前後に矯正され、収量も町内平均を超えました。しかし、一部で降雨による滞水や肥料の流亡が原因と考えられる生育不良が発生し、新たな課題が浮き彫りになりました。次年度は、土壌の物理性や施肥管理の改善に取り組み、さらなる収量向上を目指す予定です。



生育の揃いが良く肥大も良好



生育にばらつきがあり肥大不良が発生





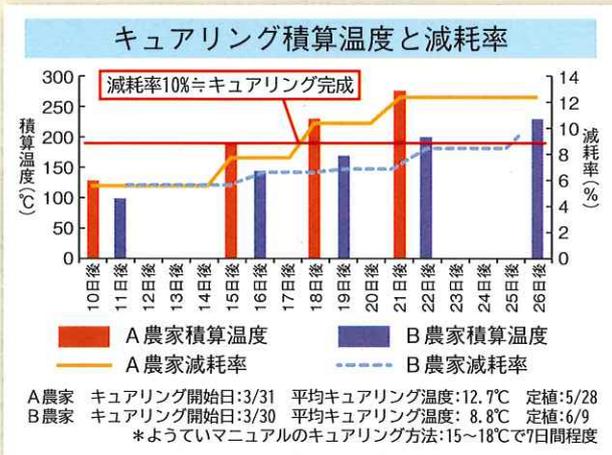
ながいものキュアリング・催芽は 温・湿度管理が重要（留寿都村）

地域
第4係

地域第4係では、留寿都村の特産であるながいもの安定生産に向け、「ながいものキュアリングから催芽までの管理」の改善に取り組んでいます。

留寿都村では春先の作業競合を回避するため、3月末から種いもの準備が始まることから、低温と換気不足による多湿状態での管理になることが多く、キュアリング不足による腐敗が発生しやすくなります。そこで、倉庫内の温湿度・換気等管理状況と種いもの状況調査を行い、実態把握を行いました。

調査では、適温・適湿の管理では腐敗菌の侵入を阻止するコルク層が早く形成され、その形成には温度が重要であることを確認しました。また、催芽時の低温・多湿による「青かび病による腐敗」と、換気不足による「不萌芽」対策として「湿度80%催芽」の調査を行い、慣行に比べて良好な結果を得られました。



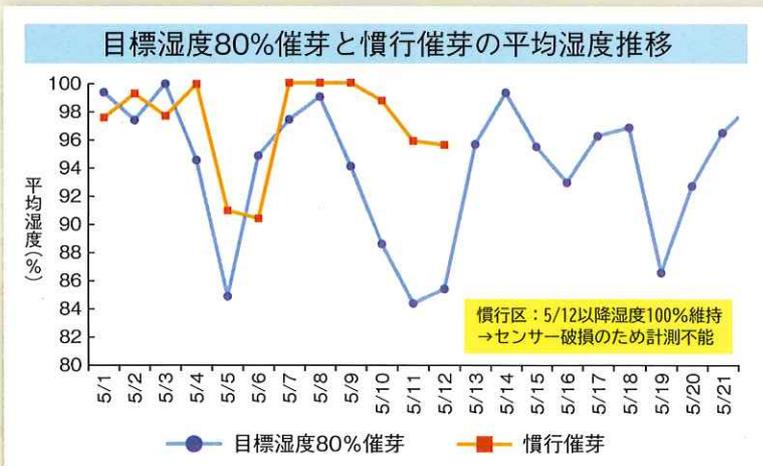
R2年キュアリング状況の実態



キュアリングによる腐敗の有無

適切な管理温度は15~18°Cです。
低温管理だとコルク層の形成に日数がかかり、
腐敗するリスクが高まります。

キュアリングは乾かすことが目的ではなく、
「コルク層」を作ることが目的です。
そのためには「温度」が必要です。



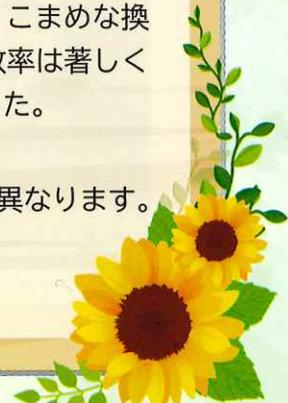
濡れコモを使用しなくても
湿度80%の確保が可能。

慣行の濡れコモを使った管理と、
濡れコモを使わずに目標湿度80%と
して換気を行った管理（「湿度80%
催芽」）を比較しました。

湿度を下げるために、こまめな換
気を実施したところ腐敗率は著しく
低下し、生育も良好でした。

ながいもの種子管理は、各農場の施設装備・労働力・管理時期によって、最適な方法が異なります。
何か困っていることがありましたら、普及センターまで是非ご連絡下さい。

今後は、肥料高騰・貯蔵中の腐敗に対応すべく、施肥体系の確認を計画しています。



ゴミ揚げ作業の省力化～簡易な 稲わら腐熟処理法の実証～（共和町）

地域
第3係

稲刈り時に発生する稲わらを春季にすき込むと、土中で還元化（酸素不足になること）が進み、有害なガスが発生して稲の根を傷めて生育に悪影響を及ぼします。

また、すき込んだ後に代かきすると、稲わらの断片が大量に浮遊するため、田植え前にこれを畦畔に引き揚げる「ゴミ揚げ作業」を行う必要があります。この作業が身体的にとっても負担がかかるため、家族から最も嫌がられる作業といえます。

これを改善するため、稲刈り後すぐに尿素10kg/10aとケイカル20kg/10aを散布し、3～5cmの深さでごく浅く混和するだけの「簡易な稲わら腐熟法」を共和町で実証しました。

その結果、稲わらの分解が進んだことで容積が減少し、ほ場がよく乾燥しました。また浮遊わらの量も減少し、ゴミ揚げ作業が大幅に軽減できました。さらに、有害なガスの発生が減少して初期生育が向上し増収しました。

本手法は、肥料高騰の状況を鑑み、ゴミ揚げ作業を行にくい形状のほ場に対して導入するとよいでしょう。



留意点は、排水性の悪いほ場では避けることと、実施によって地力が高まるため翌年は基肥（全層分）を1～2割削減する必要があります。

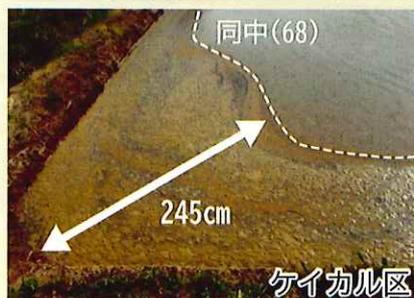


稲わら腐熟程度の容積比較 (R4. 4/21)

左：尿素+ケイカル区、中央：ケイカル区、右：無施用区

※カッコ内の数字は無施用区を100とした場合の容積比

尿素+ケイカル区（左）は土壌の乾燥がよく進み、土塊が小さい。一方、無施用区は乾燥が進まず土塊が大きい (R4. 5/10)



代かき後のほ場末端に吹き寄せられた稲わら等浮遊物が集積した範囲の比較 (R4. 5/20)

※カッコ内の数字は無施用区を100とした場合の範囲の比率



身体負担の大きいゴミ揚げ作業 (R4. 5/20)

生育調査・収量調査の結果

試験区	初期生育 (6/20調査) 茎数 (本/m ²)	精玄米重 【篩目1.9mm上】 (無施用区を100)
尿素+ケイカル区	252	114
ケイカル区	162	100
無施用区	182	(100)

農村ゼミナール～醸造用ぶどうコース～ 開催（仁木町・余市町）

北後志
支所
地域係

北後志地区の就農5年目までの新規就農者を対象として、農村ゼミナールを開催しました。「醸造用ぶどうコース」の開講は2年ぶり、令和4年度は全3回の研修会に延べ30名の参加がありました。毎回出席率が高く、熱心に傾聴し学んでいました。

第1回 8月2日 定植時のポイントを学ぶ

余市町中井観光果樹園の中井指導農業士を講師に、定植時とその後の管理ポイントについて研修しました。



土壌耕起をして、根張りの良い土にしてから定植します。苗木はカバーをかけ、風害・獣害対策を！定植後1、2年でしっかり生育させることが重要です。

第2回 11月22日 剪定のポイントを学ぶ

「北海道ワイン用ぶどう生産力向上現地実践講習会（北海道農政部農産振興課）」との同時開催でした。



第3回 12月8日 病害虫を学ぶ

講演：「有機醸造用ぶどう園で見かける病害虫」
講師：中央農業試験場病害虫グループ 西脇研究主幹

● ツマグロアオカスミカメ



芽の中にある小さな幼虫が、葉を食害します。展葉初期の被害は黒いポツポツに見えます。

● イッシキブドウトリバ

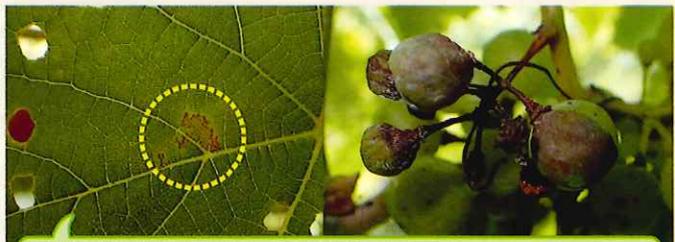


幼虫が果実内部を食害し、被害果はポロポロ落ちます。殺虫剤を控えた栽培では増えてきているようです。



第3回は初のリモート開催

● ベと病



初期防除が大切と改めて解説がありました。7月下旬から病斑が見え、8月には新梢先端への発生が目立ちます。

● 灰星病(左)と灰色かび病(右)



成熟果に発生した「灰星病」と「灰色かび病」。よく見ると、胞子の色や出方が違います。

病害虫の写真は全て西脇原図

令和4年度に新しく認定された 新指導農業士・農業士のご紹介

【指導農業士】

【農業士】



高橋 宏昌氏
真狩村



気田 洋人氏
蘭越町



野村 智治氏
真狩村



横川 考徳氏
真狩村



岡田 政人氏
共和町



今村 明博氏
共和町



奥 雅樹氏
共和町

果樹害虫発生予察情報を掲載しています (北後志支所)

北後志支所のホームページで、果樹の害虫発生予察情報を掲載しています。

防除のタイミング等の参考にしてください。

果樹病虫害発生状況（10月20日現在） 後志農業改良普及センター北後志支所

今年度の害虫の発生

		初発日	総誘殺頭数	誘殺日数
		モモシクイガ	R4 6月14日	439
	平年	6月12日	562	99
		初発日	総誘殺頭数	誘殺日数
		スモモヒメシクイ	R4 5月13日	656
	平年	5月18日	703	125
		初発日	総誘殺頭数	
		キンモンホソガ	R4 6月18日	742
	平年	6月22日	1432	



今年度の初発日は平年並でしたが、総誘殺頭数はやや少なめでした。スモモヒメシクイは平年に比べて収束が遅く、誘殺日数が長くなりました。

今年度の病害の発生

黒星病、斑点落葉病、モニリア病の発生は、予察ほ場では認められませんでした。りんご腐らん病の発生は多くなっています。次年度以降の発生の低減に向けて、罹病部の削り取りの際には削りかすを圃場に残さないように注意しましょう。

普及センターだより アンケートにご協力 お願いします！

今後の紙面に皆様のお考えをお寄せ下さい！

下からアンケートフォームへ進み、回答をお願いします。

(5分程度で終わります)



後志農業改良普及センター

【本 所】

住所：虻田郡倶知安町旭57-1

電話：0136-22-1072 FAX：0136-22-4744

ホームページ：<https://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/>

【北後志支所】

住所：余市郡余市町朝日町11番地1

電話：0135-22-5135 FAX：0135-22-5987

ホームページ：<https://www.shiribeshi.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/kita/>

